別紙２

平成２８年度「日本遺産(Japan Heritage)」認定概要

① ◎宮城県（仙台市，塩竈市，多賀城市，松島町）

※◎印は代表自治体（以下同）

≪政宗が育んだ“伊達”な文化≫

（ストーリーの概要）

仙台藩を築いた伊達政宗は，戦国大名として政治・軍事面での活躍は広く知られるところであるが，時代を代表する文化人でもあり，文化的にも上方に負けない気概で，自らの“都”仙台を創りあげようとした。

政宗は，その気概をもって，古代以来東北の地に根付いてきた文化の再興・再生を目指す中で，伊達家で育まれた伝統的な文化を土台に，上方の桃山文化の影響を受けた豪華絢爛，政宗の個性ともいうべき意表を突く粋な斬新さ，さらには海外の文化に触発された国際性，といった時代の息吹を汲み取りながら，これまでにない新しい“伊達”な文化を仙台の地に華開かせていった。

そして，その文化は政宗だけに留まらず，時代を重ねるにつれ，後の藩主に，さらには仙台から全国へ，そして武士から庶民にまで，さまざまな方面へ広がり，定着し，熟成を加えていった。

【大崎八幡宮】

② ◎山形県（鶴岡市，西川町，庄内町）

≪自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢 300 年を超える杉並木につつまれた 2,446 段の石段から始まる出羽三山～≫

（ストーリーの概要）

山形県の中央に位置する出羽三山の雄大な自然を背景に生まれた羽黒修験道では，羽黒山は人々の現世利益を叶える現在の山，月山はその高く秀麗な姿から祖霊が鎮まる過去の山，湯殿山はお湯の湧き出る赤色の巨岩が新しい生命の誕生を表す未来の山と言われます。

三山を巡ることは，江戸時代に庶民の間で『生まれかわりの旅』として広がり，地域の人々に支えられながら，日本古来の，山の自然と信仰の結び付きを今に伝えています。羽黒山の杉並木につつまれた石段から始まるこの旅は，訪れる者に自然の霊気と自然への畏怖を感じさせ，心身を潤し明日への新たな活力を与えます。

【羽黒山の石段と杉並木】

③ ◎会津若松市・喜多方市・南会津町・下郷町・檜枝岐村（ひのえまたむら）・只見町・北塩原村・西会津町・磐梯町・猪苗代町・会津坂下町・湯川村・柳津町・会津美里町・三島町・金山町・昭和村（福島県）

≪会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～≫

（ストーリーの概要）

磐梯山信仰を取り込み東北地方で最も早く仏教文化が花開いた会津は，今も平安初期から中世，近世の仏像や寺院が多く残り「仏都会津」とよばれる。その中でも三十三観音巡りは，古来のおおらかな信仰の姿を今に残し，広く会津の人々に親しまれている。

会津藩祖，名君保科正之が定めた会津三十三観音巡りは広く領民に受け入れられ，のちに様々な三十三観音がつくられた。会津の三十三観音は，国宝を蔵する寺院から山中に佇むひなびた石仏までいたるところにその姿をとどめており，これら三十三観音を巡った道を，道中の宿場や門前町で一服しながらたどることで，往時の会津の人々のおおらかな信仰と娯楽を追体験することができるのである。

【史跡慧日（えにち）寺跡】

④ ◎郡山市・猪苗代町（福島県）

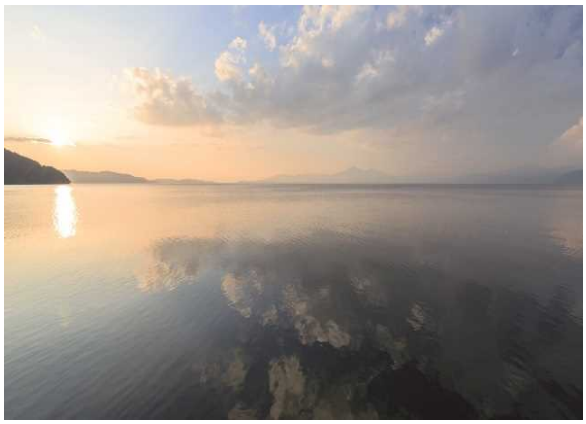
≪未来を拓いた「一本の水路」－大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡　郡山・猪苗代－≫

（ストーリーの概要）

明治維新後，武士の救済と，新産業による近代化を進めるため，安積（あさか）地方の開拓に並々ならぬ想いを抱いていた大久保利通。夢半ばで倒れた彼の想いは，郡山から西の天空にある猪苗代湖より水を引く「安積（あさか）開拓・安積（あさか）疏水開さく事業」で実現した。

奥羽山脈を突き抜ける「一本の水路」は，外国の最新技術の導入，そして，この地域と全国から人，モノ，技を結集し，苦難を乗り越え完成した。この事業は，猪苗代湖の水を治め，米や鯉など食文化を一層豊かにし，さらには水力発電による紡績等の新たな産業の発展をもたらした。

未来を拓いた「一本の水路」は，多様性と調和し共生する風土と，開拓者の未来を想う心，その想いが込められた桜とともに，今なおこの地に受け継がれている。



【猪苗代湖】

⑤ ◎千葉県（佐倉市，成田市，香取市，銚子市）

≪「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」ー佐倉・成田・佐原・銚子：百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群ー≫

（ストーリーの概要）

北総地域は，百万都市江戸に隣接し，関東平野と豊かな漁場の太平洋を背景に，利根川東遷により発達した水運と江戸に続く街道を利用して江戸に東国の物産を供給し，江戸のくらしや経済を支えた。こうした中，江戸文化を取り入れることにより，城下町の佐倉，成田山の門前町成田，利根水運の河岸，香取神宮の参道の起点の佐原，漁港・港町，そして磯巡りの観光客で賑わった銚子という４つの特色ある都市が発展した。

これら四都市では，江戸庶民も訪れた４種の町並みや風景が残り，今も東京近郊にありながら江戸情緒を体感することができる。

成田空港からも近いこれらの都市は，世界から一番近い「江戸」といえる。

【〈左上〉佐倉市武家屋敷）・〈左下〉成田山門前町（大野屋）・〈右上〉佐原の山車行事・〈右下〉銚子市外川の町並み】

⑥ 伊勢原市（神奈川県）

≪江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～≫

（ストーリーの概要）

大山詣りは，鳶などの職人たちが巨大な木太刀を江戸から担いで運び，滝で身を清めてから奉納と山頂を目指すといった，他に例をみない庶民参拝である。そうした姿は歌舞伎や浮世絵にとりあげられ，また手形が不要な小旅行であったことから人々の興味関心を呼び起こし，江戸の人口が 100 万人の頃，年間 20 万人もの参拝者が訪れた。

大山詣りは，今も先導師たちにより脈々と引き継がれている。首都近郊に残る豊かな自然とふれあいながら歴史を巡り，山頂から眼下に広がる景色を目にしたとき，大山にあこがれた先人の思いと満足を体感できる。

【浮世絵：歌川豊国（うたがわとよくに）「大當大願成就有が瀧壷」文久 3（1863）年】

⑦ 鎌倉市（神奈川県）

≪「いざ、鎌倉」　～ 歴史と文化が描くモザイク画のまちへ ～≫

（ストーリーの概要）

鎌倉は，源頼朝によって幕府が開かれた後，急速に都市整備が進められ，まちの中心には鶴岡八幡宮，山には切通（きりどおし），山裾には禅宗寺院をはじめとする大寺院が造られた。

この地に活きた武士たちの歴史と哀愁を感じられる古都鎌倉は，近世には信仰と遊山の対象として脚光を浴び，近代には多くの別荘が建てられたが，歴史的遺産と自然とが調和したまちの姿は守り伝えられてきた。

このような歴史を持つ古都鎌倉は，自然と一体となった中世以来の社寺が醸し出す雰囲気の中に，各時代の建築や土木遺構，鎌倉文士らが残した芸術文化，生業や行事など様々な要素が，まるでモザイク画のように組み合わされた特別なまちとなったのである。

【鎌倉文学館】

⑧ ◎三条市・新潟市・長岡市・十日町市・津南町（新潟県）

≪「なんだ、コレは！」　信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化≫

（ストーリーの概要）

日本一の大河・信濃川の流域は，8000 年前に気候が変わり，世界有数の雪国となった。この雪国から 5000 年前に誕生した「火焔型土器」は大仰な４つの突起があり，縄文土器を代表するものである。火焔型土器の芸術性を発見した岡本太郎は，この土器を見て「なんだ，コレは！」と叫んだという。火焔型土器を作った人々のムラは信濃川流域を中心としてあり，その規模と密集度は日本有数である。このムラの跡に佇めば，5000 年前と変わらぬ独特の景観を追体験できる。また，山・川・海の幸とその加工・保存の技術，アンギン，火焔型土器の技を継承するようなモノづくりなど，信濃川流域には縄文時代に起源をもつ文化が息づいている。火焔型土器は日本文化の源流であり，浮世絵，歌舞伎と並ぶ日本文化そのものなのである。

【国宝笹山遺跡出土火焔型土器】

⑨ 小松市（石川県）

≪『珠玉と歩む物語』小松　～時の流れの中で磨き上げた石の文化～≫

（ストーリーの概要）

小松の人々は，弥生時代の碧玉（へきぎょく）の玉つくりを始まりとして 2300 年にわたり，金や銅の鉱石，メノウ，オパール，水晶，碧玉の宝石群，良質の凝灰岩石材，九谷焼原石の陶石などの石の資源を見出し，時代のニーズに応じて，現代の技術をもってしても再現が困難な高度な加工技術を磨き上げ，ヤマト王権の諸王たちが権威の象徴として挙って求めるなど，人・モノ・技術が交流する豊かな石の文化を築き上げてきている。

【八日市地方遺跡の玉つくり】

⑩ ◎南木曽町・大桑村・上松町・木曽町・木祖村・王滝村・塩尻市（長野県）

≪木曽路はすべて山の中　～　山を守り　山に生きる　～≫

（ストーリーの概要）

戦国時代が終わり新たな町づくりがすすめられると，城郭・社寺建築の木材需要の急増は全国的な森林乱伐をもたらした。森林資源が地域の経済を支えていた木曽谷も江戸時代初期に森林資源の枯渇という危機に陥る。所管する尾張藩は，禁伐を主体とする森林保護政策に乗り出し，木曽谷の人々は，新たな地場産業にくらしの活路を見出した。

そして，江戸時代後期，木曽漆器などの特産品は，折しも街道整備がすすみ増大した御嶽登拝（おんたけとはい）の人々などによって，宿場から木曽路を辿り全国に広められた。

江戸時代，全国に木曽の名を高めた木曽檜（き）や木曽馬（そうま），木曽漆器など伝統工芸品は，今も木曽谷に息づく木曽の代名詞である。

【妻籠宿（つまごじゅく）保存地区】

⑪ 高山市（岐阜県）

≪飛騨匠の技・こころ　―木とともに、今に引き継ぐ１３００年―≫

（ストーリーの概要）

「飛騨工制度」は古代に木工技術者を都へ送ることで税に充てる全国唯一の制度で，飛騨の豊かな自然に育まれた「木を生かす」技術や感性と，実直な気質は古代から現代まで受け継がれ，高山の文化の基礎となっている。市内には中世の社寺建築群や近世・近代の大工一門の作品群，伝統工芸など，現在も様々なところで飛騨匠の技とこころに触れることができる。

これは私たちが木と共に生きてきた 1300 年の高山の歴史を体感する物語である。

【雲龍寺（うんりゅうじ） 鐘 楼門（しょうろうもん）】

⑫ ◎淡路市・洲本市・南あわじ市（兵庫県）

≪『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」　～古代国家を支えた海人の営み～≫

（ストーリーの概要）

わが国最古の歴史書『古事記』の冒頭を飾る「国生み神話」。この壮大な天地創造の神話の中で最初に誕生する“特別な島”が淡路島である。その背景には，新たな時代の幕開けを告げる金属器文化をもたらし，後に塩づくりや巧みな航海術で畿内の王権や都の暮らしを支えた“海人（あま）”と呼ばれる海の民の存在があった。畿内の前面に浮かぶ瀬戸内最大の島は，古代国家形成期の中枢を支えた“海人（あま）”の歴史を今に伝える島である。

【渦潮】　　【国生み絵】

⑬ ◎吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村（奈良県）

≪森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとこころ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～≫

（ストーリーの概要）

我が国造林発祥の地である奈良県吉野地域には，約 500 年にわたり培われた造林技術により育まれた重厚な深緑の絨毯の如き日本一の人工の森と，森に暮らす人々が神仏坐す地として守り続ける野趣溢れる天然の森が，訪れる人々を圧倒する景観で迎えてくれる。

ここに暮らす人々が，それらの森を長きに亘って育み，育まれる中で作り上げた食や暮らしの文化が今に伝わり，訪れる者はそれを体感して楽しむことができる。

【下多古（しもたこ）村有林】

⑭ ◎和歌山県（新宮市，那智勝浦町，太地町，串本町）

≪鯨とともに生きる≫

（ストーリーの概要）

鯨は，日本人にとって信仰の対象となる特別な存在であった。人々は，大海原を悠然と泳ぐ巨体を畏れたものの，時折浜辺に打ち上げられた鯨を食料や道具の素材などに利用していたが，やがて生活を安定させるため，捕鯨に乗り出した。

熊野灘沿岸地域では，江戸時代に入り，熊野水軍の流れを汲む人々が捕鯨の技術や流通方法を確立し，これ以降，この地域は鯨に感謝しつつ捕鯨とともに生きてきた。当時の捕鯨の面影を残す旧跡が町中や周辺に点在し，鯨にまつわる祭りや伝統芸能，食文化が今も受け継がれている。

【太地のくじら踊】

⑮ ◎大山町・伯耆(ほうき)町・江府(こうふ)町・米子市（鳥取県）

≪地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市≫

（ストーリーの概要）

大山の山頂に現れた万物を救う地蔵菩薩への信仰は，平安時代末以降，牛馬のご加護を願う人々を大山寺に集めた。江戸時代には，大山寺に庇護され信仰に裏打ちされた全国唯一の「大山牛馬市」が隆盛を極め，明治時代には日本最大の牛馬市へと発展した。

西国諸国からの参詣者や牛馬の往来で賑わった大山道沿いには，今も往時を偲ぶ石畳道や宿場の町並み，所(ところ)子(ご)に代表される農村景観，「大山おこわ」など独特の食文化，大山の水にまつわる「もひとり神事」などの行事，風習が残されている。ここには，人々が日々「大山さんのおかげ」と感謝の念を捧げながら大山を仰ぎ見る暮らしが息づいている。

【大山】

⑯ ◎雲南市・安来(やすぎ)市・奥出雲町（島根県）

≪出雲國たたら風土記　～鉄づくり千年が生んだ物語～≫

（ストーリーの概要）

日本古来の鉄づくり「たたら製鉄」で繁栄した出雲の地では，今日もなお世界で唯一たたら製鉄の炎が燃え続けています。たたら製鉄は，優れた鉄の生産だけでなく，原料砂鉄の採取跡地を広大な稲田に再生し，燃料の木炭山林を永続的に循環利用するという，人と自然とが共生する持続可能な産業として日本社会を支えてきました。また，鉄の流通は全国各地の文物をもたらし，都のような華やかな地域文化をも育みました。

今もこの地は，神代の時代から先人たちが刻んできた鉄づくり千年の物語が終わることなく紡がれています。

【たたら製鉄】

⑰ ◎呉市（広島県）・横須賀市（神奈川県）・佐世保市（長崎県）・舞鶴市（京都府）

≪鎮守府　横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～≫

（ストーリーの概要）

明治期の日本は，近代国家として西欧列強に渡り合うための海防力を備えることが急務であった。このため，国家プロジェクトにより天然の良港を四つ選び軍港を築いた。静かな農漁村に人と先端技術を集積し，海軍諸機関と共に水道，鉄道などのインフラが急速に整備され，日本の近代化を推し進めた四つの軍港都市が誕生した。百年を超えた今もなお現役で稼働する施設も多く，躍動した往時の姿を残す旧軍港四市は，どこか懐かしくも逞しく，今も訪れる人々を惹きつけてやまない。

【〈左上〉呉鎮守府司令長官官舎（呉市）・〈左下〉東京湾要塞跡猿島砲台跡（横須賀市）・〈右上〉旧佐世保無線電信所（針尾送信所）施設（佐世保市）・〈右下〉舞鶴赤れんがパーク（舞鶴旧鎮守府倉庫施設）（舞鶴市）】

⑱ ◎今治市（愛媛県）・尾道市（広島県）

≪“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島－よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶－≫

（ストーリーの概要）

戦国時代，宣教師ルイス・フロイスをして“日本最大の海賊”と言わしめた「村上海賊」“Murakami KAIZOKU”。理不尽に船を襲い，金品を略奪する「海賊」（パイレーツ）とは対照的に，村上海賊は掟に従って航海の安全を保障し，瀬戸内海の交易・流通の秩序を支える海上活動を生業とした。その本拠地「芸予諸島」には，活動拠点として築いた「海城」群など，海賊たちの記憶が色濃く残っている。尾道・今治をつなぐ芸予諸島をゆけば，急流が渦巻くこの地の利を活かし，中世の瀬戸内海航路を支配した村上海賊の生きた姿を現代において体感できる。

【能島城跡】

⑲ ◎佐賀県（唐津市，伊万里市，武雄市，嬉野市，有田町）・長崎県（佐世保市，平戸市，波佐見町）

≪日本磁器のふるさと 肥前　～百花繚乱のやきもの散歩～≫

（ストーリーの概要）

陶石，燃料（山），水（川）など窯業を営む条件が揃う自然豊かな九州北西部の地「肥前」で，陶器生産の技を活かし誕生した日本磁器。肥前の各産地では，互いに切磋琢磨しながら，個性際立つ独自の華を開かせていった。その製品は全国に流通し，我が国の暮らしの中に磁器を浸透させるとともに，海外からも賞賛された。

今でも，その技術を受け継ぎ特色あるやきものが生み出される「肥前」。青空に向かってそびえる窯元の煙突やトンバイ塀は脈々と続く窯業の営みを物語る。この地は，歴史と伝統が培った技と美，景観を五感で感じることのできる磁器のふるさとである。

【〈上〉柿右衛門（濁手）・〈下〉大川内山の町並み】